


生薬解説 227 せー22

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
せー22	ぜんこ 前胡	苦・辛・微寒 肺	3～9g、煎服。
中医生薬解説			
<p> <span style="color: blue;">降気消痰</span> 肺熱の咳嗽、黄色で粘稠な痰、胸苦しいなどの症候に、杏仁・桑白皮・貝母などと用いる「前胡散」。  <span style="color: blue;">宣散風熱</span> 風熱表証で咳嗽、多痰、呼吸促迫、咽痛などを呈するときに、桑葉・薄荷・牛蒡子・白前などと用いる「二前湯」。                 </p>			
<p>                     参考 生用（前胡）が一般であるが、蜜炙（炙前胡）すると潤肺、降気化痰に働く。                      前胡・杏仁は降気为主体で疏散の性質を持つが、前胡は涼性で降気消痰、散風清熱に偏し、杏仁は温性で降気止咳平喘、散寒に偏する。                      前胡・柴胡は発散に働き、散風解熱に配合されるので、「二胡は風薬たり」と称される。                      前胡は肺経に入り下降を主とするのに対し、柴胡は肝胆経に入り上昇を主とする。                 </p>			
 <p>ノダケの根</p>			
<p>                     使用上の注意 陰虚火旺および寒飲咳嗽には用いない。                 </p>			